この章のまとめ

この章では、theという冠詞のもつ不思議な力について検討しました。

- 同じ冠詞といっても、aとtheでは、ずいぶん雰囲気が違う。単なる意味の違い、使う場面の違い以上の違いである。aは「リンカク」を描くので、モノの外観を意識させる。それに対して、theは「区別」を表し、その結果、話者のあいだの了解を示す。
- theの表す「区別」とは、単なるカタチ上、外見上の差異にとどまらない。「自分が買った本」と「本屋に置いてある本」のような抽象的な違いも、theを付けることで区別することができる。
- このようなtheの使い方からもわかるように、theには、後ろに置かれる名詞のエッセンスを取り出す働きがある。Necessity is the mother of invention.のthe mother（母親のようなもの）のtheがこれになる。
- Bell invented the telephone.のthe telephoneのように、発明品にtheを付けることがある。これは、「電話（という新しい機能）」というふうに、telephoneのエッセンスを取り出すtheである。
- play the pianoのような「楽器に付けるthe」も、theが楽器に込められた音楽のエッセンスを取り出していると考えることができる。しがたって、楽器をモノととらえれば、buy a fluteのように可算名詞として扱えるし、「する」側面に焦点を当てれば、go to schoolなどと同じように、play pianoと無冠詞になる。

第10章　病気と冠詞

冠詞の付け方は、「モノ（名詞）を話し手がどのようにとらえているのか」を反映しています。
この章では、モノと私たちの関係を、病名や病気に関する単語を手がかりに検証したいと思います。
病気には、**「風邪」のようなごく身近なもの**から、**「コレラ」のように知識だけで知っているもの**、さらには**「黒死病」**（中世ヨーロッパで流行り、人口の多くが失われた病気。ペストであると言われている）**のような歴史上の病気**まで、さまざまあります。そして、**私たちとこれらの病気との距離感も多様**なのです。
病気は、私たちが外界のモノをどのようにとらえているのかを検討し、さらには、それが冠詞の付け方と、どのように関わってくるのかを調べる格好の材料となります。

(1)　病気と病名

最初に、「病気」にあたる単語を見てみましょう。ふだんよく使う、病気を表す単語には、次の3つがあります。

病気：disease / sickness / illness

病気を表す**diseaseは可算名詞**として使うことができます。
diseaseは**「名前の付く病気」**を連想させる言葉です。「名前の付く病気」というのは、コレラ、チフス、インフルエンザといったものです。コレラ、チフス、インフルエンザで病気が3つというふうに数えるので、diseaseも数えられます。

でも、diseaseという単語には、もう1つの側面があります。こ